

那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2019 年 3 月 13 日

週報 第 255 号



インスピレーションになるう

四つのテスト

- 1、真実かどうか
- 2、みんなに公平か
- 3、好意と友情を
深めるか
- 4、みんなの為に
なるかどうか

プログラム案内

本日のプログラム

3月13日(水)

- ・点鐘
- ・ロータリーソング
それこそロータリー
- ・会長報告
- ・幹事報告
- ・会員卓話
RYLA 研修セミナー報告
地区副委員長 小林 充
・次回予定
会員卓話 渡慶次 馨会員

例会報告

第 2670 回 (2019 年 3 月 6 日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
65 名	38 名	25 名	61 %	42 %

欠席会員

喜納、名幸、安里(清)、糸洲、高田、仲本、
宮里、具志堅(一)上原、大城(博)、大濱、
大庭、福重、久保、渡慶次、立津、城間(久)
内野、三浦、照屋(紀)、奥野、平尾、宮城、臼井
石垣会員

ビジター

新井 聡 (伊勢崎中央)

メイクアップ会員

石川正一 (3/1 RYLA) 小林 充 (3/1 RYLA)

儀部頼人() 豊村良春()

新里順一() 松島寛行()

宮内一郎() 大城純市()

江夏正浩()

ニコニコBOX

合計 ¥14,000 累計 ¥328,000

新井 聡 (伊勢崎中央) ニコニコへ

へ参列して参りました。

会 長 具志堅 一真 副会長：比嘉広明 當間良明
幹 事：比嘉芳直

例会日 毎週水曜日 12 時 30 分

例会場 ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6 階

TEL : 861-7824 FAX : 861-7825



照屋義実 この度の故三男明洋(アキヒロ) 葬儀に際しましては公私共にご多忙中にも拘わりませず御弔問ご会葬賜わりご丁寧なるご焼香並びにご香料ご弔電ご供花など誠に有難く謹んで御礼申し上げます。

大城純市 ダイキンオーキッドゴルフトーナメントの成功を祈念して

会長報告 (當間副会長)



本日の理事会は議題が少なかった為、特に報告することはありませんので省略します。

これで終わらせるのは寂しいので弁護士という職業柄、日々のニュースで気になる事をお話しします。日産カルロスゴーン会長の保釈が保釈金 10 億円で決まりました。これまでに 2 度脚下されたが新しい弁護団に代わり 3 度目の正直で認められた。現場にいる我々からすると、東京地裁の保釈脚下については海外から批判もあるし国内からもある。これまでの流れからすると保釈はもう少し遅かっただろう。普通の案件であれば否認をしているので、第一回の裁判が始まるまでは勾留が続く。これは今回の事件がやはり特殊というか国際的という側面もあると思う。そうゆう意味で我々の業界は非常に関心を持っている。東京地裁がどのような判断をするのか、弁護団がどうゆう保釈の条件で交渉をしたのか、今後、秋ぐらいから始まる裁

判での攻防に興味がある。事件の内容については色々あると思うが、本来であればもう少し会社内部で処理すべきなのかなと思う。コンプライアンスの観点での問題であるので疑念、疑問など今後の展開を我々も注視しています。

(幹事報告)

各RC例会変更のお知らせ
那覇ロータリークラブ

(例会場変更)

日時：2019年3月12日(火)
場所：ロワジールホテル&スパタワー那覇1階
「あまいろ」
ビジター費：2500円

(例会変更) 夜間例会

那覇北ロータリークラブ
日時：2019年3月14日(木) 19:00～
場所：沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
8階レストラン横シーズ
ビジター費：4,000円

那覇ロータリークラブより、創立60周年記念講演・式典・祝賀会に対するの御礼状が届いております。

異動の挨拶 (近藤会員)



お世話になりました。
異動先は羽田の客室センターで8千名くらいの客室乗務員がいます。

バナー交換



左から (伊勢崎中央RC 新井さん、當間副会長)

卓話 (具志堅 毅会員)



○沖縄タイムスは1948年7月1に創刊し昨年で70周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物だと感謝しています。

「縄タイムス70年のあゆみ」年表



沖縄タイムスは先人達が沖縄戦を教訓に二度と戦争のためにペンを取らないとの想いで、沖縄の問題を地元メディアが発信することでその役割を担った。戦後の復興は文化の復興からということで取組んできた。

○本日紹介するのは沖縄の貧困問題です。

県が全国に先駆け初めて子供の貧困を調査したところ深刻でショッキングな数字だった。取材をしていく中で「貧困の連鎖」とか多くの問題が出てきた。新聞社として報道するだけでなく何かできないかとスタートしたのが「沖縄こども未来プロジェクト」です。

○2015年に子供の貧困を調査した時29.9%、沖縄の子供の3人に1人は貧困状態にあった。手取り年収が125万円以下で暮らす子供の割合は全国平均の2倍と沖縄の低所得が明るみに出た。給食費の滞納世帯(小5)38%、食料困窮の経験(小1+小5+中2)43%と実際満足に食事も出来ていない。学校給食が唯一の食事で休日や夏休みはお腹を空かせている実態が明らかになった。母子世帯(ひとり親世帯)の平均所得は年185万円という事で収入の少ない影響を子供達はもろに受けている。親は昼も夜も働いて子供に接してあげられない現実もある。

○2016年度本格的な貧困解消に向けた取組みをスタートした。内閣府が緊急対策として10億円計上し子供貧困対策元年として様々な取組みを行っている。30年までに子供貧困率を10%までに戻すという目標を掲げ県民運動を展開してきた。この3年、子供の貧困問題を多くの場所で伝えてきた。2016年の元旦号から「ここにいるよ沖縄子供の貧困」の連載をスタートした。親の離婚や病気、虐待、若年出産、夜間労働など18歳未満の3人に1人が貧困の実態を67回連載した。読者の皆様から大きな反響もあり「沖縄こどもみらいプロジェクト」を創設した。県民・個人・企業からサポーターを募り基金を作って支援していく取組みで、運営は外部の有識者、法人サポーター7人で構成し支援先の選考、課題解決に向けた対策の提言などを行っている。入学前の学用品(制服、ランドセル等)が困窮世帯の大きな負担となっている実態もあり、個人向けの入学応援給付金も実施している。これまでの支援実績は累計22団体、1485人へ6440万円の支援を実施している。支援した保護者や子供から感謝の手紙を多く頂いているが、まだ希望者全員にサポート出来ていないのが現状です。

○最後に戦後文化の復興だけでなく様々な報道をしてきましたが、このような課題にもしっかりと向き合っていきたいと思います。